

# コロケーションと英語辞書

赤野 一郎

## 1. はじめに

少し長くなりますが、最初に『Value 1000』[改訂版]の「はじめに」の一部を引用します。「英語の文法と単語を知っていれば、英語を自由に書いたり話したりできるでしょうか。確かに、文法規則に従って単語を並べれば、文法的に正しい文を作ることができますが、できあがった文が必ずしも英語として自然な文とは言えないことがあります。たとえば、「～をする」を英語で言う場合、do, playなどが考えられますが、では、「努力をする」は何と言うでしょうか。この場合、make an effortと言うのが最も一般的です。do an effortはやや不自然で、play an effortとは言えません。このような単語と単語の結びつきの傾向を「コロケーション」と言います。」英語の表現力を高めるには、このコロケーションの知識が欠かせません。そしてコロケーション情報は英和辞典や英英辞典から得ることができます。そこで以下では学習英語辞典において、コロケーションがどのように取り扱われているかを見ていくことにします。なお赤野(2005, 2010)を併せてお読み頂ければ、本稿の理解がより深まるでしょう。

## 2. コロケーションとは

コロケーションとは、語と語の習慣的な共起関係をいいます。そして共起関係にある主要語を「中心語」、それと結合する語を「共起語」と呼びます。

コロケーションは2つに分けられ、1つは「文法的コロケーション」で中心語(名詞、形容詞、動詞)と前置詞や不定詞・動名詞・節からなる句のことで、英和辞典では動詞を中心に記載される「文型」に相当します。もう1つは「語彙のコロケーション」で、名詞・形容詞・動詞および副詞からなる句で、英和辞典では「連結」や「結びつき」と呼ばれることがあります。文型に比べ比較的最近、辞書記述に導入されるようになりました。さきほどのmake an effortは語彙のコロケーションに当たります。

## 3. コロケーションの先駆的業績

現在では電子辞書にも収録されている市川繁治郎編『新編英和活用大辞典』(研究社, 1995)の初版『英和活用辞典』は、1939年に勝俣銓吉郎が独力で編纂した世界で初めてのコロケーション辞典です。その第2版である『新英和活用大辞典』(1958)(以下『活用』)の「新版の刊行に際して」において、彼は次のように述べています。

語義を示すのではなく、語が他の語と慣習的に結合して一つの表現単位をなすその姿を広く採集し、これを文法的に排列したもので、その狙いは英語活動態(English in action)を展示しようとするにある。

「習慣的」、あるいは「一つの表現単位」の部分はまさに現代のコロケーションの定義に通じ、その先駆性は世界的にもっと評価されるべきでしょう。

『活用』の先駆性は、今日では当たり前になっている名詞と動詞を中心に文法構造に基づく配列方法を考案した点にもあります。名詞を中心とした配列では、動詞+名詞(V)、名詞+動詞(V2)、形容詞(Q)+名詞、名詞(Q2)+名詞、前置詞(P)+名詞、名詞+前置詞(P2)の構造の下に、例文が日本語訳を添えて共起語のアルファベット順に配列されています。analysisの項の前半部を示します。

analysis, *n.* 分析。

V *attempt an analysis* 分析を試みる。¶ *elude analysis* 分析しにくい。¶ *defy (=resist) analysis* 端倪(たんげい)すべからざるものがある。¶ *make a previous analysis of it* それを予め分析する。¶ *push the analysis further, and you will see that ...*

Q *a careful analysis of all the factors of a problem* 問題の各要素の丹念な分析。¶ *chemical analysis* 化学的分析。¶ *a cold analysis* [問題などの]冷静な解剖。¶ *The writer's culture for force, therefore, is in its deepest analysis a culture of character. ...*

## 4. 学習英英辞典とコロケーション

本節では学習英英辞典の代表として *Longman Dictionary of Contemporary English [LDOCE]*

を取りあげ、コロケーション記述を概観します。

初版(1978)ではおもに用例に組み込まれ、固定した句は‘esp. in the phrs. beyond/outside/not within one’s ken’のように注記で提示されましたが、網羅的に採録されているわけではありません。第2版(1987)でもこの提示方法は変わりませんが、用例の固定部分を太字で示す方法が採られています。

**place**<sup>1</sup> *n* 1 [C] ... *I dropped the book and lost my place.* (=could not find the point I had reached in reading it) | *Could you keep my place in the queue* (=make sure no one comes and stands where I have been standing) *while I go and get a paper.* | ...

大規模コーパスによって詳細なコロケーション分析が可能になり、第3版(1995)でその成果が取り入れられます。重要語のコロケーションパターンが太字の小見出しになり、用例が添えられます。

**clear**<sup>1</sup> 1 ► **EASY TO UNDERSTAND** ◀ expressed in a simple and direct way so that people understand: ... | **be clear on** *The rules are quite clear on that point.* | **clear to sb** *Is all this clear to you?* | **make sth clear** (=express something strongly). ... | **make it clear (that)** *Mr. Tate made it clear there was to be no compromise.* | **make yourself clear** (=express something well) *To make yourself clear without using facial expressions can be very difficult.* | **get sth clear.** ... | **Do I make myself clear?** ...

さらに第4版では、‘**clear about what/when/how etc**’のような文法コロケーションや‘**absolutely/ abundantly clear**’のような副詞+形容詞も小見出しになります。名詞を中心語とするコロケーション記述の徹底化が図られます。第3版と第4版の analysis の記述の質と量の差に注意して下さい。

1 [C,U] a careful examination of something in order to understand it better: *a detailed analysis of the week’s news* 2 [C,U] a careful examination of a substance to see what it is made of: *Forensic experts are doing analyses of the samples.* 3 (定義省略) PSYCHOANALYSIS 4 **in the final/last analysis** (定義省略) *In the final analysis, profit is the motive.* [LDOCE 3]

1 [C,U] a) ... : [+of] *a detailed analysis of the week’s news* | *Further analysis of the dada is needed.* | **do/carry/conduct an analysis** *They were doing some type of statistical analysis* b) the way in which someone describes a situation or problem, and says

what causes it to happen: [+of] *Do you agree with Max’s analysis of the failure of free-market capitalism?* 2 [C,U] (上2と同じ): [+of] *analysis of genetic material* | **for analysis** *Blood samples were sent for analysis.* | *You’ll get the results when the analysis is complete.* 3 (定義省略) = **psychoanalysis**; → **therapy**: *She’s been in analysis for three years.* 4 **in the final/last analysis** (定義省略): *In the final analysis, profit is the motive.* [LDOECE 4]

第4版では of を従えることを明示し、例文に含まれる「形容詞+analysis」の部分を実際際立させ、「動詞+analysis」「前置詞+analysis」を新たに小見出しにしています。‘do+analysis’は第3版にも例示されていましたが、用例の中に紛れてしまっています。

第5版では重要名詞600語に COLLOCATIONS の囲みが設けられ、コロケーション重視の方針が押し進められ、同梱されたDVDには、辞書本体には含まれていない内容も収録されています。たとえば辞書の analysis の内容は上掲の第4版と同じですが、DVDには図1の囲みが設けられています。

COLLOCATIONS	
ADJECTIVES/NOUN+analysis	
<b>a detailed/in-depth analysis</b>	<i>a detailed analysis of the firm’s earnings</i>
<b>an in-depth analysis</b> (=detailed analysis)	<i>an in-depth analysis of global warming</i>
<b>a careful/close analysis</b>	<i>Students learn to make a close analysis of the texts.</i>
<b>a brief analysis</b>	<i>Let’s start with a brief analysis of the situation.</i>
<b>statistical analysis</b> (=using statistics)	<i>Their research was based on statistical analysis.</i>
<b>a critical analysis</b> (=that makes judgements about how good or bad something is)	<i>Write a critical analysis of the following poem.</i>
<b>economic / political / scientific etc analysis</b>	<i>His book provided a scientific analysis of human behaviour.</i>
<b>data analysis</b>	<i>the use of databases for data analysis</i>
VERBS	
<b>be based on an analysis of something</b>	<i>This work has been based entirely on an analysis of large mammals.</i>
<b>do/carry out/perform/conduct an analysis</b>	<i>No similar analysis has been done in this country.</i>
<b>provide/produce an analysis</b>	<i>The report provided an analysis of the problems we need to address.</i> (以下省略)

図1 DVD版LDCOE5のコロケーション欄

## 5. 学習英和辞典とコロケーション

コロケーションを明示的に扱うようになった最初

の英和辞典は、『グローバル英和辞典』（三省堂、1983）です。編者の佐々木達氏が「まえがき」において編纂で意を注いだ点として「語連結(collocation)の導入」をあげ、次のように述べています。

これは既刊の英和辞書には全く見られない特色である。これまで語連結の採用は〔英和〕より〔和英〕、あるいはむしろ「英作文辞書」に相当である、という固定観念があったと思う。しかし語義をできるだけ体系的に把握するためには、語連結の知識がきわめて有用である。たとえばAという語が語Bとは連結するが、語Cとは反発するという事実は、A、B、Cそれぞれの本義と必然的に関係を持ち、したがってそれは各々の語の本義に対して側面から光を投ずるものである。

『グローバル』の最大の特徴は意義の記述にあります。佐々木氏は多義語の意味記述を行う際、根底にある基本的意義を「本義」、本義のもとに展開する意義を「分義」と呼び、語の意義を本義ごとにグループ化します。この考え方を踏まえれば、「まえがき」の主旨は、コロケーションの知識は語の意義関係を理解する一助になるということになります。今日一般的に、コロケーションはそれぞれの語の意義からその適・不適が予想できないという意味で、「習慣的な結合」であるとされていますので、佐々木氏の「まえがき」の主張には頷けません。実際の提示の仕方は、形容詞＋名詞、動詞＋名詞、動詞＋副詞の文法構造に従い共起語をリスト表示する方法で、語の意味の理解というより語の活用のための情報になっています。

sufficient [convincing; slight] ~ // collect [gather] ~; present ~ (s.v. EVIDENCE) / ~ bluntly [curtly, flatly, point-blank]; modestly. (s.v. REFUSE)

「連結」は『グローバル』の改称改訂版である『新グローバル英和辞典』（1994）および『ニューセンチュリー英和辞典』[第3版]（1995）に受け継がれ、後者では「基本語に限り（721語）、訳をつけ学習者向きに改善したものを新設」しています。

『グローバル』に次いで『プロシード英和辞典』（福武書店、1988）が「結びつき」という欄を設けます。この辞書にはユニークな特徴が2つあり、1つは動詞の主語と目的語に関して、典型的な名詞を示したことです。

主語— coal 石炭, embers 燃えさし / a lamp ランプ,

city lights 街の明かり, a neon sign ネオンサイン / a firefly ホタル (s.v. GLOD)

目的語— bazaar バザー, concert コンサート, conference 会議, debate, discussion 討論会, election 選挙, exposition 博覧会, fair 品評会, funeral 葬式, reception 歓迎会, wedding ceremony ... (s.v. HOLD)

もう1つは名詞の選択が、以下で示したように、umbrellaのような日常生活語彙にも配慮が払われていることです。かなり英語のできる学生でも「傘をさす」(put up/hold an umbrella)が言えません。

ball, bed, cloth, contract, crime, disease, door, effort, election, envelope, floor, food, game, hair, house, idea, information, meal, meat, nose, pain, respect, river, road, rule, umbrella, voice, weather, etc.

『グローバル』に始まるリスト形式が一般的な提示方法である中において、『スーパーアンカー』は巻末に「重要名詞コロケーション小辞典」を付け、「学習者・教師などが日常的に使用する可能性の高い名詞とその連語関係(コロケーション)をまとめ」ています。また『フェイバリット』はリスト形式ですが、日本人学習者の観点から和英方式を採用しています。

[動詞＋～] // 証拠をあげる give [introduce] ~ / 証拠を見つける find [dig up, turn up] ~ / 証拠を集める gather ~

[形容詞＋～] // 直接証拠 direct ~ / 状況証拠 circumstantial ~ / 動かぬ証拠 unquestionable [undeniable, incontestable] ~ (s.v. EVIDENCE)

本格的にコーパスに基づき編纂された『ウィズダム英和辞典』[第3版]（三省堂、2013）では『プロシード』と同じように生活語彙を重視し、たとえばumbrellaにまつわるコロケーションが用例と「表現」の囲みで示されています。

**umbrella** ... 1 かさ, 雨がさ; 日がさ (→ parasol, sunshade) ▶ walk under an umbrella かさをさして歩く / Take an [your] umbrella with you. かさを持って行きなさい / Why don't you share my umbrella? 私のかさに入りませんか / May I share your umbrella? かさに入れてもらえませんか / a folding umbrella 折りたたみがさ an umbrella blown inside out おちよこになったかさ。

**表現** かさにまつわる動作 ▶ hold [put up] an umbrella かさをさしている [さす] / open [close] an umbrella かさを開く [閉じる] / fold an umbrella かさをたたむ。

## 6. 海外のコロケーション辞典

英和、英英を問わず学習英語辞典の記載内容は、語の選択制限、使用域・スピーチレベル、文型、用例、語法など多岐にわたります。コロケーションもその1つですが、汎用的な学習辞典ではその記述が十分とは言えません。そこで必要とされるのがコロケーション専門の辞典です。本節で比較的最近、海外で出版されたコロケーション辞典を紹介します。

まず *Oxford Collocations Dictionary for Students of English* (OUP, 2002) [OCD]をあげなければなりません。というのはコーパスに依拠した最初のコロケーション辞典だからです。BNCの分析結果に基づき、9,000の名詞、動詞、形容詞に対して、15万のコロケーションと5万以上の用例を収録しています。今までの共起語(と用例)を列挙するだけのコロケーション辞典と異なり、頻度をベースに共起語が選ばれており、典型例が添えられています。

### analysis noun

- ADJ. careful, close, comprehensive, detailed, in-depth, systematic, thorough | brief | objective, subjective | comparative, critical, qualitative, quantitative, statistical, theoretical | cost-benefit, discourse, economic, financial, historical, linguistic, strategic, structural, stylistic
- VERB + ANALYSIS carry out, do, make, perform  
*They carried out an in-depth analysis of the results.*  
| give *He gave a brief analysis of the present economic situation.*
- ANALYSIS + VERB indicate sth, show sth  
*Analysis of the wine showed that it contained dangerous additives. ...*

2009年に20億語のOxford English Corpusを活用し、改訂版が出されました。25万のコロケーションと7万5千の用例を収録され、より精緻なコーパス分析の結果を取り込み、*AmE*, *BrE*, *esp. AmE*, *esp. BrE*のラベルを用いて、差異がある場合には、見出し語とコロケーションに英米の別を示しています。

driving licence (*BrE*) (*AmE* driver's license) noun  
ADJ. valid | current | clean (*esp. BrE*) | full (*BrE*)  
| commercial (*AmE*) | provisional (*BrE*) (s.v. LICENCE)

*Macmillan Collocations Dictionary* [MCD] (Macmillan, 2010)は16億のコーパスに基づき編纂されました。大規模コーパスがあれば、語の共起語の頻度順リストは容易に得られます。コロケーシ

ョン辞典の大半は、OCDも含めて程度の差はありますが、そのリストを示すことが主目的でした。しかしこのMCDが最も工夫を凝らしたのは、コーパスから得られた多数の共起語を意味のグループに分類・配列したことです。このあたりの事情を、編集主幹のMichael RundellがIntroductionにおいて“Every set has its own definition, its own list of collocates, and its own example sentences”と述べています。次のanalysisの項を今まで掲げた辞書と比べてみると、この編集意図がわかります。

careful study of something to understand it or learn what it contains

- adj+N careful careful, detailed, in-depth, rigorous, thorough *The survey is the first of a quarterly series to provide a detailed, up-to-date analysis of the industry.*
- ▶ using particular methods comparative, critical, forensic, functional, numerical, qualitative, quantitative, spatial, statistical, structural, textual, theoretical (用例省略)
- ▶ in a particular field chemical, economic, genetic, linguistic, mathematical, sociological (用例省略)
- ▶ done at an early stage initial, preliminary (用例省略)
- ▶ done after the event retrospective (用例省略)
- n+N content, cost-benefit, data, discourse, risk ...

共起語の形容詞が careful, using particular methods, in a particular field, done at an early stage, done after the eventの5つのグループに分類されていて、共起語の選択がしやすくなっています。

## 7. 国内のコロケーション辞典

3節で触れた『新編英和活用大辞典』をまずあげなければなりません。旧版からの形式面の変更点は、to不定詞やthat節などの文法コロケーションを示す欄を新設したことと、共起語の分類表示をV, V2, Q等の記号から〈動+〉, 〈+動〉, 〈形+〉のようにわかりやすくした点です。内容面では、特殊な文学的効果を狙う用例、偶発的結合の用例は削除され、古くなった例文は現代的なものに書き改められ(福島2007)、「ほぼ8割の用例が新しく記述され」、その結果20万例から38万例に増加しました。

河本健・大武博『ライフサイエンス英語表現使い分け辞典』(羊土社, 2007)というユニークなコロケーション辞典があります。生命科学分野の論文

抄録 3,000 万語からなる LSD (Life Science Dictionary) コーパスに基づき、論文に特徴的な約 1,300 語を見出しに立て、そのコロケーションパターンを頻度と用例で示しています。たとえば、ability のパターンとして、ability to do, [前]+their/its/the ability to do, [動]+the ability to, [過分]+ability to, the ability of + [名]+to do, [前]+the ability of + [名]+to do, [動]+the ability of + [名]+to do の 7 つがあげられ、それぞれの共起語が頻度順に配列され、論文からの実例が添えられています。生命科学という限られた分野のコーパスに基づいて編纂された辞書ですが、1,300 の見出し語は頻度と用法を考慮して厳選されているので、学術英語の核になります。あとは専門分野のキーワードの知識があれば、分野を問わず論文を書くための表現辞典として活用できます。

塚本倫久『プログレッシブ 英語コロケーション辞典』(小学館)は我が国で初めてコーパスに基づき編纂された、中級学習者向けの本格的なコロケーション辞典です。日本人英語学習者を念頭に 2,500 語の見出し語が選定され、それぞれの見出し語のコロケーションは BNC の頻度情報などに基づき提示されています。significantly DIFFERENT, cordially INVITE, sign a CONTRACT, a long-term CONTRACT のような語彙的コロケーションと、be AFRAID of A, APPLY A to B, the FACT that のような文法的コロケーションを示しています。例文に関しては、著者の同僚の John Blundell 氏による綿密な英文校閲を経た「実際の場面をほうふつとさせる」ものが添えられています。

## 8. コロケーションのかなめは名詞

本稿で紹介したコロケーション辞典に共通している特徴があります。それは名詞が見出し語の多くを占めているということです。たとえば、LDOCE 5 の COLLOCATIONS 欄はすべてが名詞の項に組み込まれています。コロケーション欄を設けている学習英和辞典も、「名詞を主に、見出し語によく結び付く語を…」(『グローバル』)というように、名詞と他の語との共起関係を重視しています。この名詞中心主義は勝俣(1939)がすでに「本書の配列は、英語中の主要語である名詞に最も重きを置き…」と述べています。

名詞中心主義を表現の観点から考えると次のようにまとめることができます。たとえば環境問題についてのエッセイを書こうとするとき、まず最初に「何を書こうか」という話題について考えることとなりますが、話題は名詞(environment, pollution, ozone layer, etc)で表現されます。その中の pollution という語から出発するとすれば、次に考えるべきことは、どのような pollution なのか(形容詞+ pollution)、そしてその pollution をどうするのか(動詞+形容詞+ pollution)、そしてその pollution への対処の仕方はどのようなものなのか(動詞+形容詞+ pollution+副詞)というふうに、pollution がそれに相応しい形容詞と、ついで動詞と結合し、最終的に pollution を含む動詞句がそれに適した副詞と結合することで、pollution に関して伝えたい内容が正確かつ適切な文になって表現されることとなります。構造上、文のかなめは動詞ですが、コロケーションのかなめは名詞なのです。

## 9. おわりに

学習英語辞典にコロケーション情報が豊富に含まれていることがおわかり頂けたと思います。日々の授業で辞書指導をする場合、生徒にコロケーションに着目させることが表現力向上につながります。

## 参考文献

- 赤野一郎(2005)「コーパスを英語教育の現場に」*CHART NETWORK*, 47: 1-4. 数研出版。  
 赤野一郎(2010)「コーパス言語学に基づく語彙指導」*CHART NETWORK*, 62: 1-4. 数研出版。  
 福島一人(2007)「定義されたコロケーションとその有用性：コロケーション辞典執筆の見地から」『情報研究』, 36: 253-282. 立教大学情報学部。

(京都外国語大学教授)